



西覚寺だより

第9号

年三回発行

報恩講法要のご案内

日にち 十一月二十九日(日)

● 午前の部 午前十時半～ 正午頃

- 内容 お勤め(重誓偈)↓唱和なし
- 御伝鈔拝読(下巻二段・三段・四段)
- ご法話

※感染症対策のため「お斎」はありません。

● 午後の部 午後一時半～午後三時頃(休憩あり)

- 内容 お勤め(正信念仏偈作法第二種)
- 御伝鈔拝読(下巻二段・三段・四段)
- ご法話

● 布教使 松林尚真 師(滋賀県・老練)

一 昨年の報恩講でもお話しくださった先生です。電子ピアノをご持参され、仏教讃歌などを交えて、一味違ったご法話をしてくださいませ。

● 持ち物 **必ずマスク着用の上、御参拝下さい**

お念珠、門徒式章(お持ちの方)、御仏前(受付にお渡し下さい)
引き続き、感染症対策を講じて勤修致します。換気もしますので、みなさま**必ず暖かい服を着て御参拝下さい**。

2021年 年間法要予定

来年の西覚寺で勤める法要・行事の予定一覧です。感染症の状況をふまえながらの開催になるかとは思いますが、皆さま、ぜひご都合を合わせて、どなた様もお参り下さい！

○春季彼岸会

3月21日(日) 午後1時半～
落語と法話の会。落語は任職の友人。演目は『宗論』の予定

○特別永代経法要

4月25日(日) 午前10時半～・午後1時半～
法話 三井求(任職・本願寺派布教使)

○花まつり

5月22日(土) 午前10時～午後4時頃
花まつりとは、お釈迦様のお誕生日をお祝いする行事です。お子様・お孫様連れでお参り下さい。

○初参式並びに小学校入学祝いの会

6月6日(日) 午後2時～
お子様・お孫様が生まれた、小学校に入学した。その節目に阿弥陀さまにお参りをさせて頂きましょ。年が明けてから、御案内や参加の申込書はお送りします。

○孟蘭盆会・物故者追悼法要

7月15日(木) 午前10時半～・午後1時半～
法話 加藤学 師(三重県・本願寺派布教使・若手)
※午後の物故者追悼法要は、2020年6月以降に御往生された方を対象に勤まります。ご家族の方はどうぞお参り下さい。

○秋季彼岸会・総永代経法要

9月23日(木・祝) 午前10時半～・午後1時半～
法話 山宮真船 師(岡崎市・本願寺派布教使)

○報恩講法要

11月28日(日) 午前10時半～・午後1時半～
法話 植田豊 師(和歌山県・本願寺派布教使)



私たちの生きる意味 なぜ生かされているのか

第三回／全三回



承前、親鸞聖人も「私の生きる意味」を求め抜かれたおひとりなのだと感じています。

親鸞聖人の生まれた家系は藤原氏の系統の中、日野家と呼ばれる家系でした。しかし、わずか九歳で得度をし（僧侶となられ）、比叡山に上られました。しかも、他の兄弟もみな同様に僧侶になられたそうです。これは普通のことではありません。その理由は何だったのでしょうか。定かなものはありませんが、現在言われている有力な説だと、親鸞聖人のお父様が源平の権力闘争に巻き込まれ、子どもたちだけはその争いに巻き込まれないようにと、出家させたのではないかと、という説です。いずれにしても、幼少の頃から親鸞聖人はこの世のどうにもならない厳しい現実、人間の醜く耐え難い争いを目の当たりにされた、ということなのかもしれません。

自分の意志とは関係なく、未知の世界に足を踏み入れなければならぬ。そして、もう帰る場所もない。人生がいったんゼロになってしまったとしたら、みなさんどう感じるでしょうか。『ここで生きていくしかない。私の人生、ここで実を結ぶしかない。それしか道はない。後戻りもできない。それができなければ、私はそれこそ何者でもなくなってしまう。』そう思い詰めるのではないのでしょうか。親鸞聖人の場合、それがわすか九歳であった。大変厳しく、相当なご覚悟であったのではないかと想像します。

親鸞聖人は比叡山で必死に学ばれ、修行に打ち込まれました。仏道を歩む者の目的は「仏と成る」、「さとりを求め、仏道を究める」こと。親鸞聖人のお連れ合い、恵信尼さまのお手紙には「生死出づべき道」と認められています。それが仏道修行に励む者の「生きる意味」であり、「目的」なのです。それができなければ、その道を歩む者として、それこそ「むなししい」道になってしまう。生死（しょうじ）の迷いを捨て、さとりを得るために、昼夜を問わない修行に打ち込まれました。

また、現在も布教で活躍されている藤田徹文先生の著書には、親鸞聖人のその求道の目的は、決して自分のため（自利）だけでなく、当時の戦乱や天災などで苦しむ人々を救い導くため（利他）でもあった、とお書きになられています。

しかし、九歳で得度されてから約二十年間修行に打ち込まれても、ご自身の歩むべき「生死出づべき道」は見つかりませんでした。このままでは仏道を歩む者として意味をなさなくなってしまふ。それでも諦めきれずに、自らの生きる意味を求めて、探しに探して、求めに求めて、ようやく法然聖人に出会い、そこで阿弥陀さまの南無阿弥陀仏のお救いに真に出遇われたのです。親鸞聖人のご和讃の一首です。

『本願力にあひぬれば むなしくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし』

実は私たちも親鸞聖人と同じように、既に南無阿弥陀仏に出遇っています。阿弥陀さまのご用意くださった南無阿弥陀仏を頂いたのなら、私たちの人生がたとえどんな道であろうとも、「あなたの命は仏と成る命です。すべて私に任せない」という南無阿弥陀仏の大道の上なのです。私の命は、仏に成るといふ無上の意味を頂くのです。むなしく生死迷いの世界にとどまることはないのです。もったいないことです。仏さまに成らせて頂く道、南無阿弥陀仏の大道をご一緒に歩ませて頂きましょう。（おしまい）

布教に行ってきました

9月26日（土）・27日（日）

三重県津市の光蓮寺さまへ（詳細はHPをご覧ください）

『秋のお彼岸・永代経法要』でのご法話のご縁を賜り、出向して参りました。昨年の秋に「本願寺派布教使」の資格を頂いて以来、他のお寺さまでのご法話のご縁は今回が初めてでした。

初日の一席目はかなり緊張しましたが、お参りにみえている方の温かな雰囲気は助けて頂きました。聞き手の方々が、「うんうん」と頷き、こちらに目を向け耳を傾けてくださることで、私のような未熟な話し手であっても、その場を成り立たせることができ、そんな風に「ああ、ありがたいなあ。光蓮寺さまのご門徒の方々にお育て頂いたなあ。光蓮寺さまのご本尊さまにお育て頂いたなあ。」としみじみ感じながら帰ってきました。今回お育て頂いたご縁を大切に、そして無駄にすることなく、研鑽して参ります。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12・8

☎ 0566・76・3594

http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/